2015年（平成27年）
第88号
（4月1日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　田中規之
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区東山区東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

第２６回全国車いす駅伝競走大会ボランティア　～青年部が活躍！～

３月８日、第 26 回全国車いす駅伝競走大会が京都市左京区の国立京都国際会館前から右京区の西京極陸上競技場までの５区間、21.3 キロのコースで行われました。時折日差しがのぞく穏やかな天候の下、各都府県などの２４チームが都大路を疾走しました。

同大会の移送、介助、式典のボランティアを行っているユース 21 京都のメンバーである京都教会青年部から 13 名が参加しました。７日は国際会館駐車場で全国から来られる選手の方々の受け入れを、８日は主に西京極運動競技場で、選手のレーサー用車いすの運搬、選手がバスの乗降時の介助をしました。

また７日の夜にはグランドプリンスホテル京都において、高円宮妃殿下ご臨席のもと選手交歓会が行われ、その席上でユース 21 京都の理事長を務める澤村男子部長がお祝いの言葉を述べました。

慰霊を通して平和を祈る　～京都府宗教連盟／新宗連京都府協議会青年部～

■深草墓園にて春季慰霊祭を開催

３月 29 日、京都市深草墓園において春季慰霊式典が開催されました。慰霊式典は、昭和 33 年９月を初回として、今回で 114 回目になります。市長をはじめ市議会、市役所及び宗教連盟の代表者が来賓として参拝しました。

一部は、京都市が主催して行われ、門川京都市長の式辞、京都市議会副議長と遺族代表の弔辞、遺族代表の献花が行われました。

引き続き、遺族会が主催して二部の春季慰霊祭が行われました。京都府宗教連盟から金光教京都・東部・西部・南部教会連合会の奉仕によって行われました。来賓の玉串奉奠（ほうてん）に続いて、参列者全員が玉串を奉奠　台に捧げ、故人を慰霊しました。

■京都教会で「福幸の祈り」を開催

３月 29 日、本会京都教会において新宗連京都府協議会青年部が主催して、「2015 平和と幸せ 福幸(復興)を祈ろう」が開催されました。

同協議会の佐藤益弘議長のあいさつに続き、各教団代表者による折鶴奉納があり、全員で福幸の祈りを捧げ、平和を考えるグループワークを行いました。

（詳細は次号で）

時事刻々

先日、わらび座のミュージカル「ブッダ」を観劇しました。原作は手塚治虫氏。５年前には映画化され、今回、初めてミュージカル化されました▼この作品は、古代のインドでシャカ族の王子シッダールタが生まれ、人々が苦悩から解放されるための答えを探し求めて出家し、悟りに至るまでを演じています▼生きることの意味を問い続け、出会う人々と苦悩を共にするブッダの姿、舞台上で演じられるストーリーを追いながら、場内は感動の渦に巻き込まれていきました▼こうした芸術にふれて、いつもと違う感動や気づきを味わうことがあります。昔から、宗教と芸術の関係が深いのは、人々の精神性を高めることができるからでしょう▼一方、春はさまざまな草木の花咲く季節です。春は晴れやかな気持ちになります▼４月８日の降誕会は、花まつりとも言われ、仏教行事の中では華やかなものではないでしょうか。降誕会ではブッダの生誕を祝すと共に、明るく前向きな気持ちを持ちたいものです。

今月のことば　～未熟を自覚する～

右京支部長　板野 記代子

「今月のことば」は右京支部の板野が担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

４月号の佼成では**「未熟を自覚する」**というご法話を会長先生からいただいております。

最初にこのタイトルを目にしたとき、私にぴったりのところだと思いました。それは、私は今年１月から支部長という大役を拝命し、何もかもわからないことばかりなので何かあるたびに、「未熟者なので・・・」と言葉にしていたからです。

前段の「一路向上」の中で、「もし信頼できる人から『仏とはガマガエルやミミズのことだ』と教えられたら、みなさんはどう受けとめるでしょうか」と問いかけています。そして「このことについて道元禅師は『ガマやミミズを仏と信じ日ごろの見解を捨てなさい』と教えています。……私たちは無量無辺ともいえる宇宙のなかの、ほんの一点にもみたないことしかわかっていないです。したがって**先入観や固定観念に縛られると真実が見えなくなり、大切なことを見失ってしまう**と諭されたのでしょう。その意味では、人はだれもが未熟な存在といえるかもしれません」と会長先生は述べておられます。

さらに「無量義経の『愚痴多き者には智慧の心を起こさしめ』という一節があります。『愚痴』とは、未熟なために自分の見識や欲望にとれわれる愚かさのことですが、それが『智慧の心』によって無限の可能性を開く扉になるというのです。未熟さや愚かさは、それを自覚すれば、いつでも向上のきっかけになります。『智慧の心』とは何かと言えば、それは『生かされている』という人間としての本然の気づきだと思います。それをとおして**謙虚に、素直になるとき、あらゆる可能性の扉が開かれる**」と教えていただいています。

「あらゆる可能性の扉が開かれる」という言葉によって、失敗の連続で落ち込む私でしたが、勇気をいただき、希望あふれる気持ちにさせていただきました。

後段の「幸せな人生の基」では、「一見、否定的とも思える未熟さや愚かさの自覚ですが、私たちの向上や成熟を助ける飛躍台となる、大切なことなのです。さらにその自覚は、『生かされている』という智慧とも相まって、人に対するやさしさや思いやりにつながり、人と相和して暮らすことがほんとうの幸せの基にもなるのです」と教えてくださっています。

そして、伝教大師最澄の著述に「愚か者のなかの最も愚かなる者という自覚から「忘己利他」…己を忘れて他を利する…という教えを打ち立てられとありますが、私たちは、**未熟で愚かな存在であると自覚することによって人生の味わいが豊かになる**と教えていただきました。

最後に、岡本かの子の歌「桜ばな　いのちーぱいに咲くからに　命をかけてわが眺めたり」を紹介し、「私たちは愚かさを内に抱えながらそのままに、まさに『いのちいっぱい』生きるとき、大きな花が開くのだ」と結ばれています。

４月はお釈迦さまが誕生された月です。そして新社会人、新一年生も誕生し、新年度が始まる月でもあります。私はこれまで、「未熟者なので・・・」と言うことで相手に甘え、苦手なものごとから逃げていたように思います。今月の教えていただいたように**「未熟や愚かさの自覚は向上や成熟を助ける飛躍台」**と受け取り、私も支部長新一年生として、謙虚に素直になってお出逢いさせていただくすべての人、ものごとから逃げず、「いのちいっぱい」精進させていただきます。

合掌

青年婦人部だより　「ちょっといい話!!」

～亀岡支部　菱田 順子さん～

今年のテーマとして、光祥さまから教えていただいた**「意識して、心を整えて、喜びの世界が広がるような言葉かけ」**をさせていただこうと心に決めました。

そんな時、教会の研修で学んだ**「ありのままを見る、光るものを見つけ出す様なふれあいの仕方」**を実践してみようと、帰りに会員さんに伝えようと思いました。

でも、家族が待っているので、一刻も早く帰りたいという気持ちと葛藤しながら国道を走っていました。すると、仏さまから**「安心して行きなさい」**と言われたかのように赤信号になったので、思い切って道を曲がって会員さんの家に立ち寄ることにしました。

そのおかげさまで、その方との触れ合いを通して、**「あたたかい言葉がけ」**を実践できた喜びで、とてもさわやかな気持ちになりました。

早く帰りたいと思う気持ちと、学んだことを伝いたいという、**二つの願いを仏さまは叶えて下さいました。**また、この教えを信じ、歩もうとすれば、あとは**仏さまが動いて下さる**と感ぜざるを得ませんでした。

異なる宗教・文化をもつ他者との共存を　～WCRP平和大学講座にて～

３月６日、伏見稲荷大社・社務所において、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会が主催して「異質なものとの共存を求めて―他者性を考える―」をテーマに平和大学講座が開催されました。

まず、拓殖大学イスラーム研究所教授・所長の森伸生氏が基調発題に立たれました。「イスラームの基礎的理解」と題し、イスラーム世界の現状、イスラームの意味、イスラームの世界観などを説明した後、イスラーム世界において非イスラーム（他宗教者）とも共生することが説かれており、非イスラーム世界における少数派のイスラーム教徒はその世界でのルールを守るものとされており、異なる宗教であっても、**正しい教えを正しく理解して、正しく行動すること**で、対話の糸口が開かれると述べました。そして最後に、イスラームは人殺しやテロリズムを正当化するものではなく、他宗教者の人たちもイスラームを正しく理解して欲しいと訴えました。

続いて、WCRP日本委員会平和研究所所長・中央大学教授の眞田芳憲氏がコーディネーターを務め、同志社大学神学部教授・一神教学際研究センター長の小原克博氏とWCRP日本委員会平和研究所所員・秩父神宮宮司・京都大学名誉教授の薗田稔氏、基調発題をされた森伸生氏によるパネラディスカッションが行われました。

ディスカッションでは「日本は昔から自らを大事にしながら、異質なものを取り入れるという寛容性をもった民族だったが、最近は寛容の精神が薄くなっている」「異質なものに対してレッテルを貼る（決めつける、単純化する）ことで、恐怖心を除こうとする」という問題提起がなされました。そして、WCRPはこれまでの**宗教間対話だけでなく、非宗教者との対話も必要**で、なぜなら**貧困・差別・迫害・不平等といった問題は、力（権力・武力）だけでは解決できないからだ**という指摘がなされました。

身近な社会を自分たちが治めるという意識を　～統一地方選挙に向けて～

いよいよ４月には統一地方選挙が行われます。先月号で政治に対する信仰者としてのあり方を述べましたが、今回は国政選挙でなく、地方選挙だからこそ、私たちが政治に対して意識を持つことが必要だということを述べたいと思います。

国政選挙では日本という国がどのような方向に向かうかを決めることで、外交や経済、社会福祉といった分野では、ひとつの方針（政策）によって実施されていきます。国民の中にはさまざまな考え方をもった人がいます。だからと言って、そのすべての人の意向を政治に反映することはできません。だから、選挙で比較的多数を占めた意見により政策が決まります。

ところが、地方自治は同じ地域に住む人たちが自分たちの社会を良くするために、お互いが協力し合って取り組むことなので、トップダウンではなく住民が中心となるボトムアップ型なのではないかと考えることができます。

こういう点から見ても、日頃から自分たちの身の回りの出来事に関心を持ち、地域の人たちと共に語り、行動できるようになる。**地域のことは自分たちが治めるのだという意識を持つ**ことが大切だと言えます。身近な人たちは顔が見えるので、考え方が違っていても、**お互いを認め、協力しようとする寛容の精神が基本**にあることが求められます。

そして、地方選挙は市町村や府県の議会の議員や首長を選ぶわけですが、私たちが自治意識を高めることができれば、同じように考え行動する人材を選ぶことになるでしょう。つまり、一党一派に偏することなく、主義主張に縛られず、住民の声を真摯に受け止めるような人々に地方政治を託したいものです。

40周年を迎えた「一食を捧げる運動」のコーナー

今年は、本会において「一食を捧げる運動」が始められて、40 年を迎えます。本紙では、今月号から同運動への取り組みを掲載していきます

■一食を捧げる運動とは（ＨＰより）

〝いつでも、どこでも、誰にでも、いつまでも〟できる わかちあい運動です！「ひとの痛みを知り、ひとの幸せを祈り、ひとのために行動する心を育てる」信仰的実践です。

「世界のみんなが幸せになってほしい」と祈り、世界の各地で貧困や紛争にあえぐ人々の空腹のつらさを自分の痛みとするために、自らも食事を抜きます。そして、抜いた食事の代金を各自がそのつど募金箱に入れていきます。一人ひとりの募金は、食料や毛布、教育や植林、多くのプロジェクトとなって、世界中の仲間の支えとなります。

一食を捧げる運動では、自分の「余分」をあげるのではなく、あえて自分にとって「必要な分」である食事を「捧げる」ことを大切にしています。比較的にものに恵まれている私たちが、自分のライフスタイルを振り返りながら、少しでも少欲知足の生活が出来るようになることを目指します。

■一食を捧げる運動の歴史

1974 年（昭和 49 年）、ベルギーのルーベンで第２回世界宗教者平和会議（ＷＣＲＰⅡ）が開かれました。その宣言文に先進国の過剰な消費を戒め、少欲知足の生活を促す一文が盛り込まれました。これを受け、青森県に本部を置く松緑神道大和山が教団を挙げて「一食を捧げ、一欲を節しよう」の目的のもと「平和一食運動」を始めました。

立正佼成会もこの趣旨に賛同し、1975 年（昭和 50 年）から「節食運動」として青年部員を中心に取り組んできました。79 年（昭和 54 年）、アメリカ・プリンストンで行われた第 3 回世界宗教者平和会議（ＷＣＲＰⅢ）では、国際レベルで「一食運動」に展開していくことが決議されました。同年 10 月、開祖さまは朝日新聞の『論壇』で「一食運動の国民運動化」を提言されました。翌年、名称を「一食を捧げる運動」に変更し、今に至っています。

お知らせ　アフリカへ毛布をおくる運動　～今年も回収、発送へ取組開始～

今年も教会や各支部で次のように取り組みます。

①毛布の収集（受付期間　４月１日～5 月 31 日）

毛布と海外輸送協力金（毛布１枚につき 1000 円）をみなさまからご協力いただきます。

②メッセージの作成と縫い付け

収集された毛布にメッセージが書かれた布を縫いつけます。

③東京（集約倉庫）への発送

５月末～6 月上旬に、東京に向けて毛布を送付する「発送式」を行います。

④現地の人たちへの配布

（9～10 月）各配布国の港に送付
（11～12 月）配付国内の倉庫へ陸路移送
（来年 1～4 月）パートナー団体により配布

キャンペーン期間中、教会及び各支部で受付ます。今年も幅広いご協力をお願いします。

（京都教会実行委員会）

4～5月の主な教会行事

4 月 1 日(水)	9:00～	朔日参り・布薩の日
4 日(土)	9:00～	開祖さまご命日
5 日(日)	9:00～	花まつり
8 日(水)	9:00～	降誕会
10 日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
15 日(水)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日
※5 月 17 日(日)		こころひとつにフェスティバル

●メッセージ

フランスで飛行機の墜落事故があり、副操縦士が自身の病気で故意に墜落させたのでは…と捜査の行方が注目されています。日本国内でも自分の病気を隠して自動車事故になったニュースが過去にありました。包み隠さず言うことで職を失う怖さもあり、難しい問題と思いますが、佼成会の法座では自分のありのままをさらけ出すことで道が開けることを教えて頂きます。いかなる時も守護されていると信じたいものです。